

仙台大学 広報室



Monthly Report

スポーツコミッションせんだい設立記念 第10回スポーツシンポジウム ～スポーツが与える夢と希望～



パネルディスカッションの様子=仙台市民会館

12月13日(土)仙台市民会館大ホールにおいて、仙台市・仙台大学・河北新報社の主催「スポーツが与える夢と希望」をテーマに、今年で10回目となるスポーツシンポジウムを開催しました。小雪の舞う中、総選挙の前日にも関わらず一階の会場をほぼ埋めつくす約650名の方々にご来場いただき、スポーツの可能性が無限大であることを再認識する貴重な場となりました。

最初に仙台市長奥山氏は、スポーツコミッションせんだいの設立が仙台市民の健康に寄与することを期待するという開会挨拶をし、本学の阿部学長は、スポーツを通して感動と元気を市民に伝え、仙台全体の復興を図ろうと述べました。

第一部の基調講演では、2020東京オリンピック・パラリンピック誘致活動のスピーチで一躍世界に名を知らしめた佐藤真海^{さとうまみ}パラリンピアン(陸上・走り幅跳び)・サントリーホールディングス(株)と東日本放送のレポーターである庄司由加さんとの対談で、真海さんは日本で初めて義足をつけ競技に出場した選手として、所属するサントリーの伝統である「やってみなはれ」の精神のもと、2004年アテネパラリンピック～2008年北京パラリンピックとどのようにチャレンジしてきたかについて話されました。

< 目 次 >

スポーツコミッションせんだい設立記念 第10回スポーツシンポジウム～スポーツが与える夢と希望～	1
宮城県柴田高校体育科の2年生35名が本学で授業体験	3
健康体操を実施—美里町災害ボランティア活動	4
野球・イラン代表チームのOB色川冬馬監督が来校	4
通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催	5
学生の競技結果等	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等ございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



佐藤真海氏と庄司由加氏との対談の様子

アスリートが競技力を高め、勝利を導くために南條氏は「『Plan Do Check Action』が実に大切で、忍耐が全ての扉を開く、我慢が肝心。目標と結果が違った時にどこまで深く原因を追究できるか、その検証を忘れない。昼で戦うのは自分だけなので最後に行きつくのは、させられるのではない、自らが進んで取り組む「練習」である」と述べました。

岩佐氏は「パラリンピックは、初期の段階であった福祉や医療のリハビリという目的から発展し、現在はそれらを超えた真の競技になっており、健常者と障がい者の枠を外す心のバリアフリーが大事。ハンディキャップの度合いによって役割が違う障がい者スポーツは、障がいの重い選手が自分の果たす役目を全うするところに価値がある」と話しました。

千葉氏は「ベガルタ仙台が2度J1昇格した際、たくさんの仙台市民がお祝いを寄せてくれ選手と一体となって楽しむことができた。被災した自分もスポーツを通して絶望が希望に変わったので、被災地へスポーツの魅力というメッセージを届けることもスポーツの果たす大きな役目である。2020東京オリンピック・パラリンピック開催を力にしていきたい」と語りました。

コーディネーターである鈴木氏は「ブラインドサッカーは耳からの情報でサッカーをする素晴らしさがあり、ハンディキャップのある方から健常者がたくさんのアイデアを得られるように、スポーツはする・見る・支えることに価値がある。また、どんなに悔しくても結果を受け入れて自分を奮い立たせるしかないスポーツは、人間力をも高めてくれる。大震災後に仲間・空間・時間がない＝「三間（さんま）」がない子どもたちと高齢者が一緒になって自宅でスポーツをできる環境を整備していくために、専門的指導者を育てていくことも必要」と、スポーツの可能性をますます広げていくためのディスカッションを締めくくりました。

最後に朴澤理事長より、毎年開催してきたスポーツシンポジウムは記念すべき10回目にこのような大勢の仙台市民・関係者に参加いただき、佐藤真海選手の感動的なエピソードをみなさんと一緒に拝聴できたことを深くお礼申しあげると共に、今後ともこの取り組みを継続させていきたいと考えているので、引き続きよろしくお祈いしますとの挨拶で締めくくられました。



パネルディスカッションでは、それぞれの立場から意見が述べられました。

真海さんは競技を始め、1年半で出場したアテネパラリンピックでさまざまな選手を目の当たりにし、自分の障がい軽く思えた時に病気により足を切断するという辛い事実を受け止めることができたそうです。また、障がいを持ちながらスポーツを続けたいと願う選手達には、まだ開いていない扉を自分で開けて欲しい。健常者の方々にはパラリンピックのファンになって欲しいと呼びかけました。

第二部では「スポーツの可能性 ～夢を実現するために～」をテーマに、日本フットサルリーグ・ヴォスクオーレ仙台の千葉直樹氏（元ベガルタ仙台）、本学の准教授・全日本柔道連盟強化委員会女子監督の南條充寿氏、本学卒業生であり「第63回河北文化賞」を受賞された宮城MAX（車いすバスケットボール）ヘッドコーチの岩佐義明氏（昭和55年体育学科卒）によるパネルディスカッションが行われ、本学スポーツ健康科学研究実践機構長・ソチ五輪ボブスレー競技チームリーダーである鈴木省三氏がコーディネーターを務めました。

宮城県柴田高校体育科の2年生35名が本学で授業体験



高校生に衣服の着脱介護を教える大山学科長（左から2人目）
＝仙台大学介護実習室

12月2日（火）、宮城県柴田高校体育科の2年生35名が「上級学校訪問」のため、本学を来訪しました。訪問は、大学での授業体験を通して、早期から、進学意識を持つことや進路目標の設定を行なうことが目的。高校生たちは、本学の災害ボランティア活動のDVDを視聴した後、介護技術授業体験を行いました。同体験は、本学の介護実習室において、本学健康福祉学科の大山さく子学科長と後藤満枝講師が対応。「衣服の着脱介護」を体験し、真剣な表情で取り組んでいました。

授業体験終了後、高校生たちからは「仙台大学健康福祉学科は、介護だけでなく、寝たきりや要介護を予防する高齢者への運動指導に力を入れていることがわかった」「大学進学への気持ちが高まった」等の感想が寄せられました。

第19回新体操演技発表会を開催－若さ溢れる演技で観客を魅了



力強さと優雅さを備えた演技を見せる本学女子新体操競技部
＝仙台大学第五体育館

12月7日（日）、仙台大学第五体育館で、本学男女新体操競技部主催の「第19回新体操演技発表会」が開催されました。

出演は、本学男女新体操競技部・仙台大学開放講座ジュニア新体操教室・本学プレイキン同好会に加え、宮城県国体チーム及び浅沼圭選手（フリースタイルダンサー）にも賛助出演して頂き、発表会を盛り上げて頂きました。各選手たちは、それぞれの持ち味を十分に発揮し、若さ溢れる演技で会場内を埋めつくした500名余を魅了しました。最終演技が終わると、会場からは惜しみない拍手が送られ、第19回新体操演技発表会は盛況裏に終了しました。

発表会終了後、本学男女新体操競技部の山梨雅枝部長は「本学の男子はダイナミックで大胆な動き、女子は優雅で華麗な演技を披露してくれました。観客の皆様喜んで頂けて嬉しく思います」。「ジュニア新体操教室の子どもたちのかわいらしい姿、成長した姿にたくさんの拍手を頂きました。新体操は、体の基本的な動きを総合的に身に付けることができる競技。子どもたちには、新体操を通して体を動かす喜びや楽しさを感じ、表現力と感性を高めてほしいです」と話しました。



仙台大学男子新体操競技部の演技

健康体操を実施—美里町災害ボランティア活動



健康体操(オープン&クローズ体操)を行なう齋藤新助手(中央)
＝中埜コミュニティセンター

12月11日(木)、中埜コミュニティセンター(宮城県遠田郡美里町)で、本学と地元ボランティアグループ及び美里町社会福祉協議会が連携し、美里町災害ボランティア活動の一環として「健康体操」を実施しました。

本学からは、齋藤まり・松浦里紗の各新助手及びボランティア学生らが実演指導を行ない、阿部芳吉学長・橋本実教授(仙台大学健康づくり支援班)も参加。美里町の災害公営住宅中埜上戸団地住民及び中埜地区の高齢者の方々約60名と一緒に、頭の体操や下肢筋力トレーニング等の認知機能や筋力の維持・向上を目的として、明るく楽しく「健康体操」を実施しました。

ボランティア学生の木村丈治さん(体育学科3年一岩手・高田高校出身)は、「私自身、被災地の岩手県陸前高田市の出身です。災害ボランティアを始めたきっかけは、被災地のために何か役に立ちたいという思いからです」と話し、「笑顔と挨拶、気遣いと心配りを意識しながら活動しています。将来は健康運動指導士として、高齢者の方々の健康づくりをサポートできるようになりたいです」と今後の抱負を話しました。

野球・イラン代表チームのOB色川冬馬監督が来校



野球・イラン代表チーム監督就任の委嘱状を掲げながら阿部学長と
固い握手を交わす色川監督＝学長室

12月10日(水)、野球・イラン代表チームの監督に就任(11月30日)した本学OB色川冬馬監督(平成26年スポーツ情報マスメディア学科一宮城・聖和学園高校出身)が学長室を訪れ、監督就任の報告を行ないました。

色川監督は大学卒業後、米国独立リーグやプエルトリコ・メキシコなど五か国18チームでプレーしながら、選手の指導も行なっていました。イラン代表チームは、来年2月に西アジアカップ(八か国が参加予定)に出場する予定です。

色川監督は「イラン野球協会からは、イラン野球の普及・発展のために貢献してほしいとお話を頂いています。西アジアカップで勝つことで、多くのイラン人の方々が野球に興味を持つきっかけになったらと考えております。やるからには「優勝」を目指して頑張りたいです」「野球が2020年東京五輪で復活する可能性があります。代表チームを育て、イラン代表チームを東京五輪へ導くことが最終目標です」と力強く話しました。

昭和なつかし 健康喫茶を開催



11月11日（火）と12月9日（火）に柴田町住民を対象とした「昭和なつかし健康喫茶」が槻木生涯学習センターで開催されました。今回のイベントは、健康づくり運動サポーターの上級資格を持つ4年生2名が、主となり企画から実施をおこないました。今年で3回目となる「健康カフェ」のイベント名を「昭和なつかし健康喫茶」とし、昭和をイメージした空間で参加者に楽しんでもらえる内容をご用意いたしました。各回のテーマに沿った健康講話や運動はもちろん、喫茶コーナーでは飲み物とお菓子の提供、縁日コーナーでは、射的や輪投げ、魚釣りを体験していただきました。また、縁日コーナーでスタンプラリーも行い、各ブース列になるほど人気のコーナーでした。今回、『昭和』をイメージした空間になるよう、学生のアイデアにより装飾も工夫を凝らし、壁には昭和を思わせるような看板、喫茶コーナーのテーブルにはお手玉やメンコ、こまなどを置き実際に体験できる内容となりました。

第1回目11月11日（火）は「様々な疾患に繋がるメタボリックシンドロームについて」というテーマで、メタボリックシンドロームについての紹介やけん玉を使用しての下肢筋力のトレーニングを行いました。第2回目12月9日（火）は「認知症～口腔ケア・運動で予防～」というテーマで、認知症について理解を深め、楽しく予防できる口の体操や下肢筋力のトレーニングを行いました。

今まで仙台大学の教室に参加したことがある方だけではなく、町の広報のお知らせ版やポスターを見て興味を持ったなど、2日合わせて66名の方々に足を運んでいただきました。

参加者からは「我々の地区（槻木以外）でも教室を開催してほしい」や「運動不足を解消するきっかけになりそう」また、学生に対しても「対応が素晴らしかった」「久しぶりに若い人と話ができて楽しかった」「若さのエネルギーをもらった」と好評をいただきました。

今後も地域のニーズに応えられるよう、学生と共に地域の健康づくりを行っていこうと思います。

<報告：新助手 松浦里紗>

通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催



通信制教育の学習の進め方等について説明する久能教授=B204教室

本学教職支援副センター長の久能和夫教授より、通信制教育での学習の進め方や事前の心構え等についての説明が始まると、参加学生たちは、真剣な面持ちで聞き入っていました。

参加学生たちに対して、久能教授は「教師になるという明確な意思と情熱を持って通信制教育に臨んでほしい。自ら進んで行動する人を力強く応援していきたい」と話されました。

平成18年度からの明星大学通信教育部との教育業務提携により、仙台大学で小学校教諭二種免許状の取得が可能となりました。本学では、小学校教員採用試験において、今年度も現役合格者を輩出するなどの実績をあげています。

12月19日（金）、本学講義棟B204教室で「通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会」が開催され、中等教育課程（保健体育）を履修している本学の1年生及び2年生約30名が参加しました。

運動栄養サポート研究会「第51回活動報告会」を開催



清野さんの発表の様子=B103教室

12月19日（金）、本学B103教室で運動栄養サポート研究会「第51回活動報告会」が開催されました。報告会には、同サポート研究会所属学生約50名が参加。今回は、ラグビー部サポートグループのしらとりゆい白鳥祐衣さん（運動栄養学科3年一宮城・明成高校出身）と女子バスケットボール部サポートグループのせいのおてつお清野鉄雄さん（運動栄養学科1年一福島成蹊高校出身）から発表がありました。

活動報告会は、同サポート研究会の各学生が、目標達成に向けて立てた活動計画の進捗状況や途中経過などを報告することを目的として行なわれました。

白鳥さんは「年間活動の目標は、欠食者の割合を減らすことでした。選手たちには、栄養セミナーを実施したり、リーフレットを発行したりしながら食事の大切さや意味を指導してきました。食生活アンケートを実施した結果、欠食者の割合を全体で7割減らすことができました。今後も選手たちの食意識がさらに向上するような活動を継続していきたいです」。清野さんは「自分（選手）の適正エネルギー量を知ることが年間活動の目標に掲げました。選手たちには、料理教室に参加してもらい、自炊に対する意識を高めてもらえるよう努めました。また、大会帯同では補食提供を行ない、「試合前に疲労が取れた」などの意見が寄せられ、好評でした。そして、選手に向けて「自分の適正エネルギー量を知ることができましたか?」というアンケート調査を行なった結果、選手全員から「できた」との回答を得ることができました」とそれぞれ努力し得られた成果について発表を行ないました。

仙台大学道央支部同窓会を開催



株式会社日本ハムファイターズ・チーム統轄本部スカウトの白井康勝氏の講演会の様子=ホテルポールスター札幌



仙台大学道央支部同窓会での集合写真

12月6日（土）、ホテルポールスター札幌（北海道札幌市）で「仙台大学道央支部同窓会」が開催され、約70名の参加がありました。本学からも朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長・鈴木省三教授（仙台大学同窓会会長）・大河原則夫OB参与（仙台大学同窓会事務局長）らが出席し、同窓生と交流、懇親を深めました。

最初に、今回、道央支部同窓会が初めての試みとして、株式会社日本ハムファイターズ・チーム統轄本部スカウトの白井康勝氏の講演会を企画しました。白井氏からは「スカウティングと育成で勝つという球団方針」や「ファンファースト（ファン第一）の気持ちで考えている」等について、ご自身の経験に基づいたお話を頂きました。

講演会終了後、仙台大学道央支部の懇親会が開会され、阿部学長から冒頭の挨拶が行なわれました。阿部学長は「仙台大学は3年後に創立50周年を迎えます。その際には、道央支部同窓会の皆様にご協力をお願いできれば大変有難く存じます」と話されました。その後、参加された同窓生の皆様は、会食しながら久しぶりの再会を喜び合ったり、在学中の思い出話を花を咲かせたりと充実した時間を共有し、道央支部同窓会は盛会裏に終了しました。

スリランカ、コロナボ報告Ⅳ—横川和幸元仙台大学教授



①



②



③



④



⑤

- ①この通路で運動します。
- ②3回続けてのドリブルは出来ません。
- ③ボールの方向は定まりません。
カラーコーンがないので石が目標物です。
- ④動いているロープに反応できず、ジャンプのバランスも悪い。
- ⑤縄跳びの授業で男子は頑張っ練習しますが、女子は出来ないとすぐに諦めてしまい勝手に綱引きを始めました。
(思わず笑っちゃいました)

12月に入り寒さが厳しくなっているようですが、仙台では先日初雪が降ったとか！

こちらは雨季で雨や曇りの日が多くなっています。

スリランカではカレッジやスクールが6日から休みに入りました。

体育の授業や陸上競技の指導も3カ月が経過し、その感想をひとこと。

スリランカでのカリキュラムによると、体育実技が30%・保健が70%の割合で授業が行われているようです。

しかし、実態としては体育施設や用器具の不足により体育実技も教室で各競技スポーツに関わる知識を教えることが中心になっています。

実技を行うにしても、ここでは制服に通学靴で体育の授業を受けなければなりません。(経済的理由の他にも様々な問題があるようです)

従って、運動の内容もかなり限定され困ってしまいます。

- ・制服を汚さないような運動。
- ・汗はなるべくかかない運動。
- ・女子はスカート着用なので脚を前後左右に開くような運動は避ける。

これらの条件を満たすような運動はあるのでしょうか・・・？

生徒の実態は・・・

準備運動で膝の屈伸、脚部の伸展、首の回旋運動などを示範すると子供たちは笑い出します。今までこのような運動を見たことがないのでしょう。

異様な動きに見えたのかもしれませんが。

- ・体育の授業の経験が乏しいので、どのように体育の授業を受けたらよいのか分からない。
- ・準備運動の意味が理解できない。
- ・整列することが苦手。
- ・順番を守れない。
- ・勝手な行動をとる。
- ・運動課題が難しいとすぐに諦める。
- ・動くものに反応できない。(ドリブルや縄跳びなど：コーディネーション能力が極めて悪い)

以上の様な問題点がありますが、決して子ども達を責めるわけにはいきません。施設や用具の不足の環境下でも現場の教師の意識が少しでも変化すれば改善可能な部分がいくらかでもあるかと思われませんが・・・。

活動期間270日の半分が終わり折り返しに入りました。まだまだやることが沢山あり、実情に合わせて指導したいと思います。

<寄稿：スリランカ教育省
体育・スポーツ課 横川和幸>

平成26年仙台大学親睦会総会・忘年会開催



12月5日（金）ホテルメトロポリタン仙台において、平成26年仙台大学親睦会・忘年会が開催され、法人事務局から朴澤泰治理事長・学事顧問をはじめ藤田常務、齋常務、桜井理事、佐野理事が、東京事務所からは遠藤所長にご出席いただき、133名という多くの参加者で賑わいました。

最初に総会では、親睦会会長の阿部学長より「2月のソチオリンピック、熊原投手を率いた硬式野球部初の神宮出場と初戦突破、仲野先生のスポーツテンカが

TVでたびたび放映され、年の瀬には学内カップルの誕生など多方面で大変実り多き1年でした。学生達の実績に大学が大いに沸いた今年。来年もさらに飛躍の年にしていきたいと思います。」との挨拶がなされ、近江幹事から1年間の会計報告及び新役員の紹介がありました。

次に忘年会では平田幹事長の開会后、来賓として朴澤理事長・学事顧問のご挨拶、マーティ・キーナート特命副学長の乾杯に続きお2人のアルパ奏者による中南米の民族楽器「アルパ」が披露されました。大抽選会で盛り上がった後、若井統括副学長と吉田事務局長の3本締めで、和やかなひとときはお開きとなりました。

今年の親睦会を担当下さった平田幹事長、武石先生、田中先生、横田先生、近江課長、遠山さん、菅野さん、1年間本当にお疲れさまでした。

来年は新幹事長に久能先生、岡田先生、真野先生、金井先生、笹原さん、佐藤真紀子さん、松浦さんが選出され、久能新幹事長は「おもてなしの心で幹事を務めていきたい」とおっしゃっています。どうぞよろしくお願い致します。

男子サッカー部、明治大学を破り準々決勝進出／全日本大学選手権



FW齋藤選手(19)が決勝ゴールを決める=味の素スタジアム西競技場



ゴールを決め、喜びを爆発させる齋藤選手(同)



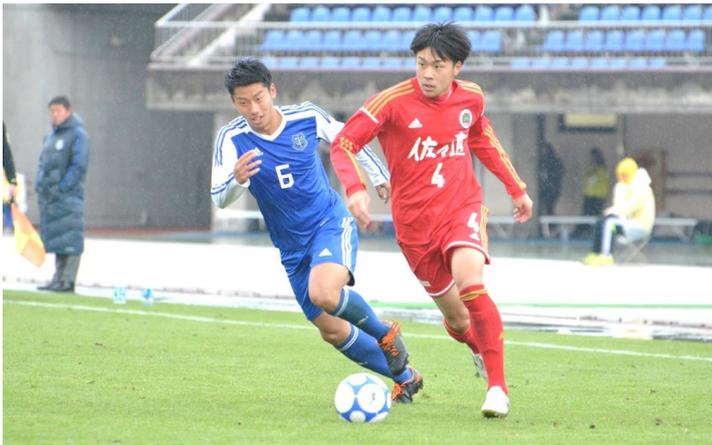
12月14日(日)、味の素スタジアム西競技場(東京都調布市)で「第63回全日本大学サッカー選手権大会」の2回戦が行なわれ、仙台大学(東北)が優勝候補の一角の明治大学(関東2位)を1-0(前半0-0、後半1-0)で破り、3年ぶりに準々決勝へコマを進めました。(本学は1回戦で常葉大学浜松(東海3位)を3-2(前半2-2、後半1-0)で振り切り2回戦進出)。

試合は序盤から自陣での防戦が続き、ピンチの連続。しかし、中條渡選手(体育学科4年-宮城・東北高校出身)や乾智貴選手(体育学科4年-群馬・桐生第一高校出身)らのDF陣が踏ん張り、GK松岡峻選手(体育学科4年-栃木・矢板中央高校出身)の好セーブでゴールを割らせず、0-0で前半を折り返しました。

後半19分、MF秋葉侑志選手(体育学科4年-モンテディオ山形ユース出身)のクロスを出場のFW齋藤恵太選手(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出身)が右足で押し込み、これが決勝点となって、仙台大学は明治大学を1-0で破りました。

福島ユナイテッドFCへの来季入団が内定している齋藤選手は、「決勝ゴールを取れたことは素直に嬉しいです。気持ちで決めたゴールです」と振り返り、「船岡(仙台大学の所在地)から力強く応援に駆け付けてくれている控え部員130名に後押しされ、本当に有難いです。仲間たちと一日でも長くサッカーが続けられるよう次も必ず勝ちます」と感謝の気持ちを込めて語りました。

男子サッカー部、健闘も16大会ぶりの4強入り逃す／全日本大学選手権



MF児玉昇選手（4）（体育学科3年—柏レイソルユース出身）が攻守にわたる活躍を見せた。＝shonan BMWスタジアム平塚



試合終了後、関西学院大学ベンチへ挨拶する仙台大学イレブン

12月16日（火）、shonan BMWスタジアム平塚（神奈川県平塚市）で「第63回全日本大学サッカー選手権大会」の準々決勝が行なわれ、仙台大学（東北）は関西学院大学（関西3位）と対戦し、惜しくも0－1（前半0-1、後半0-0）で敗れ、16大会ぶり3度目の4強入りを逃しました。

試合は前半14分に失点し、追う展開。仙台大学は相手陣内でゲームを進めますが、なかなか得点ができず、0－1で前半を折り返しました。

後半開始から仙台大学はFW齋藤恵太選手（福島ユナイテッドFC入団内定／体育学科4年—宮城・聖和学園高校出身）を投入し、攻撃にリズムを生み出し

ました。後半13分、MF秋葉侑志選手（体育学科4年—モンテディオ山形ユース出身）がフリーでボレーシュートを放ちましたが、ゴール上方へ外れま

す。同20分には、MF川上盛司選手（体育学科1年—鹿島アントラーズユース出身）の右サイドからのク

ロスをFW蓮沼翔太選手（体育学科3年—柏レイソルユース出身）が左足で振り抜きましたが、相手GKの足で止められます。その後も相手陣内で再三チャンスを作りましたが、相手の固い守りの前にゴールを決めることができませんでした。関西学院大学にあと一步及ばず0－1で敗れ、準決勝進出はなりませんでした。

引き続き、本学男子サッカー部への温かいご声援をよろしくお願い致します。

男子サッカー部、鳥山祥之選手がJFLヴァンラーレ八戸FCに入団内定



吉井監督と握手を交わす鳥山選手(右)＝仙台大学

12月5日（金）、本学男子サッカー部MF鳥山祥之選手（体育学科4年—柏レイソルユース出身）の2015シーズンからのJFLヴァンラーレ八戸FCへの入団内定が、正式に決まりました。

鳥山選手の最大の武器は、サイド攻撃からの正確なクロスボール。チームの多くの得点は、鳥山選手のクロスボールから生まれています。また、サイドバックの位置からのビルドアップ能力も高く、攻撃的なサイドバックとしての能力も高く評価されました。そして、本学男子サッカー部の14年連続31回目のインカレ出場に大きく貢献しました。

鳥山選手は「サッカーを続けられることに喜びを感じています。両親、仙台大学サッカー部の吉井監督・瀬川コーチ・伊勢コーチ・和泉コーチや今まで支えてくれた方々に感謝しながら精一杯プレーし、チームの勝利に貢献できるように頑張ります。応援をよろしくお願いします」と話しました。

なお、昨年、JFLヴァンラーレ八戸FCに加入したOB菅井拓也選手（平成26年健康福祉学科卒—宮城・聖和学園高校出身）とOB菅井慎也選手（平成26年体育学科卒—宮城・聖和学園高校出身）の双子の兄弟も、現在活躍中です。

女子フロアボール部、インカレ2年ぶり2度目のV



2年ぶり2度目となったインカレ優勝を喜ぶ、女子フロアボール部の選手たち
=仙台大学第一体育館

12月20日（土）・21日（日）の二日間、駿河台大学体育館（埼玉県飯能市）で「第4回日本学生フロアボール選手権大会（インカレ）」が開催されました。

仙台大学は1回戦で前年度優勝校の強豪・駿河台大学と対戦。1-2で迎えた第3ピリオド残り20秒で、2014年世界学生選手権フロアボール日

本代表のFW黒田こはる選手（体育学科2年-宮城広瀬高校出身）が2得点を挙げる活躍を見せ、3-2で逆転勝利を収めました。決勝戦は、仙台大学が国士舘大学を4-1で破り、2年ぶり2度目の優勝を果たしました。

千葉恵理子主将（健康福祉学科3年-宮城・岩ヶ崎高校出身）は「優勝の喜びを味わえて嬉しいです。東北リーグ（大学・社会人チームを含む）で初優勝し、その勢いそのままインカレでも優勝を果たせました」と話し、「インカレ連覇に向けて、より一層努力していきたいです」と今後の抱負を語りました。